



購料... 發行所... 印刷所... 訂價... 廣告料... 零售每份五分

内堀維文先生の逝去を悼む

三浦中學校學監 瀨戸福之助

嗚呼悲しい哉國家多事にして教育の要益々急なるの時我が教育界の重鎮内堀維文氏は六十二才の迎春を以て白玉樓中の人となりぬ。君は熊本の容貌雄偉體力超倫徳一世に尚り、志経世済民の上あり、昨夏滿洲國の創建にあたりてや、公私多忙の身を以て屢々渡滿し彼の國の教育制度の立案其他各地に於ける講演等殆ど寧日なかりき。舊臘廿五日流行性感冒に罹り突如不歸の客となりぬ。我等君の訃音に接して唯夢かとばかりに思はれぬ。かばかりに壯健なりし君も纔に一週日の病に天は早くも奪ひ去りぬ。無情なる哉蒼天。芳蘭は折れ易く珠玉は砕け易し果敢なき哉人生。君一度去りて何時の世に追憶の涙に咽びしむ。君は明治廿五年郷里の尋常師範學校を卒業し續いて東京高等師範學校文科に學び卅一年業を卒ふるや直ちに母校に入りて育英の事に従へり。卅四年八月高等師範學校舎監兼教諭に進み現鐵道大臣三土忠造氏等と共に席を同じふし相携へて文法の教授に従事せり、余の初めて君の聲に接せしは此の間の事にして當時余は高等師範在學生にして君の漢文法の講演に侍りたることもありき、鳩山文相の附屬中學にありて君の薫陶を蒙りしは此の時のことなりと聞く。明治三十六年八月清國政府の招聘に應じ現職のまま山東省師範學校正教習として赴任せらる。是君が支那大陸の教育に従事せる第一歩たり、四十二年九月任期満了に就き歸朝するや本縣師範學校長として我が神奈川縣下の教育に貢献せることは

縣民の均しく熟知せるところなり、大正二年靜岡に轉じ四年長野縣師範學校長に轉ぜらる。時に余は松本師範に職を奉じ屢々君の音容に接するの機会を得たり、六年七月官を辭せられて南滿洲鐵道株式會社に入り南滿洲國の高等普通教育に盡せり、十二年一月滿鐵を辭し旅順工科大学教授に任ぜられ關東廳中學校長を兼ねらる。昭和二年從五位勳五等に叙せられ瑞寶章を賜はる。昭和三年官を辭して大東文化學院教授兼教務主任たり、君は劇務の傍ら日華學會に關係せられ支那學生の指導に努められ日支親善に力を致すこと頗る甚大なりき。續いて六年には我が三浦中學校經營者高橋家の請に應じて校長に就任せられ着々其經綸を行ひて漸く事業整備の緒につけり、最近王道國家新滿洲國の建國に際しては東奔西走殆ど席の温まる暇なかりき。ほのかに聴く君は近く滿洲國某重要地位に就任せらるる筈なりき。惜しい哉昊天斯人に壽を假さず不歸の白雲に乗ず、悼ましい哉君は溫容珠の如く其人生活は主として道義の見地より出で何人にも對しても善意を以て解し殊に後進に對しては誘掖最も勉めらる。殊に青年を愛し一日諄々として説いて倦まず而して絶えず懐を國家に寄せて暫らくも忘るることなし、實に君は教育家にして將又國士たり。今や君逝きて亡し。九泉道遠くして呼ぶども答へず、之を望めども見えず、風に臨んで一慟すれば心腸斷えんとす。十一月東京大久保原頭全龍寺の黃土長しへに君の英魂を埋め盡さんとするにあたり君の遺業を繼承すべき幾多の名士、門弟雲の如く群り來りて極前に哭す。君の靈また爲めに少しく慰せられよ。余生前君と相知ること深き故を以て謹而蕪辭を述べて弔意を表す。

本縣の大人物

二宮尊徳と自力更生 (其六)

神奈川縣師範學校校長 佐藤禮云

彼はもう氣兼ねせず本を讀歩の事である。彼がこゝでの位働いたか、彼れ金次郎は我が家に歸つてそれは察知するに餘りあるのて先づ第一に蓄へてゐた金で、父ある。彼は日夜家業をつさめ、が曾入して流した土地、九畝十仕事を手廣くしていつたのであ步を三兩二歩で買ひもした。る。彼れ金次郎は信じて居た、人々が彼の我が家再興の最初の礎上げてあり、彼れ自力更生第一生は努力によつて開拓するべき

校長時言

視察の思出から

録倉那戸塚尋常高等小學校長 森久保敬次

教師の實力が児童に反映することの、頗る大なるものあることは、今更申すまでもないと思ふが、私が若い時學校を視察して、殊に此感を深くしたことが三回ある。△第一は神戸の湊小學校で、濱田泰徳といふ先生の書き方教授を見た。書き方の寒襖古までやつてゐるさうで、マンマンイ月と書かせたのを、譯が讀んでもコンコイ月としか讀めない金釘を並べた様な書き手が、一度此先生に受持たるや、實に素晴らしい成績となつてゐる。此先生に出會つたら、手筋も何もあつたものではない。誰も揃つて美しい文字が書ける様になるのである。私も小學校の時此先生に教へて貰つたら、今頃こんな文字を書かすにすんだものをさつと感ぜさせられ、こゝまで書いて來た感觸を眺めて苦笑を禁じ得ない。△第二は名古屋の三蔵小學校の球算である。由來名古屋は球算が盛んで、各小商店が其店々々非常に熱心に練習するさうであるし、隨つて學校でも亦此點に力を注いでゐる様である。此學校で熱心に球算を研究してゐられたのは、また二十五才の先生であつたが、此先生の指導による球算の結果は遂に全く算盤を離れて自由自在に迅速に答へ得ることが出来るのである。而も所謂暗算ではなく、頭にあり、盤面を思ひ浮べて、順次結果を得つ、進むのである。「器械を使へば、時に關係なき珠に指が觸れて、誤つた結果を得ることがあるが、器械を使はないから、かうした事は全然ないわけ、答へはいつも正確です。」と、説明する一事を以てしても其様子がわかるのである。市内の補習學校を數校兼任してゐるさうな事であつたが、此先生が關係する急ぎに生徒が激増するさうな事であるし、又其卒業生は各方面から引張り、待遇も他に優つてゐるさうなから、大した信頼があつたものである。△第三は奈良の女高師附屬の鷲尾先生の唱歌教授である。先生がタクト一本を携へて一度壇上には、生徒の顔は異様に緊張し、サツと或る氣分に満たされる。五本の指が天與の譜表として巧に取扱ひ、難しとする未譜なさよく會得せしめ、一目見れば意の如く語へる程に導く手際はほんまに驚くばかりで、此先生の教授は此先生でなければ出來ないといはれてゐる。授業の參照も度々やつたが、感心するさうな事、寧ろ呆氣に取られたのは此三回であつた。何れも教師が非凡の技を有しそれが児童に反映して其成果を納めてゐる。只に其果はかりてなく全學校に影響して素晴らしい成績をあげてゐるのである。勿論教師が自分の尊い體験から苦心體験の結果此成果を招來したことはいふまでもない。教師に實力が無けりや駄目だ！と其度毎に強く考へさせられたが、併し誰しもこんな技倆を鍛へ上げるさうな事は思ひもよらぬ事である。私は、常に心がけて、かゝる域に近づくべく修養すること共に、何物かを以て此不足を補はねばならぬと思つたのである。此不足を補ふものこそ、實に愛の力である。児童が自分の子、自分の兄弟の様にほんまに心から愛することである。此愛によつてこそ研究の動機は作られ、教授の工夫は生れ、すべてに努力して自分の足らざるを補ひ得るに至るべきこと、信するものである。最近或る人から「そんな教師を要求せられますか。」とさかされた事がある。私は「常に修養を怠らぬ心にから子供を可愛がつて呉れる人がほしい。」と答へた。現今教育を打破して兒童中心主義の高潮せらるゝに當り、や、ちすれば、教育のよつて生ずる所の原動力たる教育愛に徹せんとする教師それ自身の修養、研鑽、努力の輕視されやうとする傾向がありはせぬかといふことか心ひそか恐るゝものである。修養、研鑽、努力を惜しまず、而して愛の輝きに照らされて教育の偉業を自覺し、我は教育者なりと我自らに叫び得る境地に在任し得る様心がけたいものである。番狂はせの白羽の矢、抗議の途が開かれてゐないので、聊か而喚びながら思ひ出を綴つて其責をふさぎます。昔重の紙面を汚した事を當局並に讀者の方々にお詫び致します。

次回は 横濱市戸部尋常高等小學校校長 伊東覺念君 にお願ひ致します

川崎市小學校總動員で 學校衛生訓練週間 二月十三日から實施

中等學校 生徒保護會 初の理事會

各府縣で研究調査した 活きたる地理教材

矢作川沿岸のガラ紡 (その三)

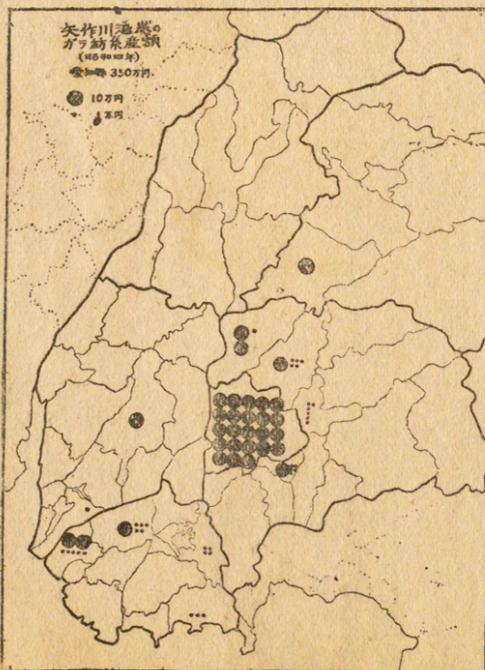
愛知縣刈谷中學校 稻垣健太郎

(4) 耕地の減少と経済思想のより輸入する。絹糸は適當のて使ふ場合の二様ある。天津平坂町の中心は現在の耕地平均一戸當り一反七畝位かない。世界大戰當時は一町歩の地主より河内一畝もつてあつた方がよかつた。岡崎地方の山間部の各町村では耕地一畝當り七反歩内外に及ぶが山間の耕地が多く、一般農家の副業の必要があつた。ガラ紡は一家族で出来る。ガラ紡機は世界大戰當時には一臺(五百十二錢)七百圓位(現今は一臺當り六十錢)三百餘圓)で買へる。そんな小資本で紡績機を一臺もつてそれで家族三人の力があれば水車工場の間借りをして請負仕事をして行ける。一晝夜八晝目出来上り、工賃一晝目四十錢、即ち三日二十錢の儲きは田舎の百姓の副業としては相當な額になる。彼の大戦當時には百姓が本業の耕作を棄て、ガラ紡を専業とするやうになつたのである。

(5) ガラ紡機の特長と原料 機は一工程で糸から糸に仕上げてしまふ。それが単純な手車の紡ぎ器と原理に於て進んでおらぬ點である。又其の點がガラ紡の他の紡績機に比して類がない特徴である。三手から四手手といふやうな太糸を紡ぐのであるが、番手が自由で同じ機械で同じ工程で重錘を加減することによつて出来る。綿糸、絹糸、麻等になるものは紡ぐことが出来る。上、新のやうな技術が出来るとは、洋式機械では真似することが出来ぬ。

(6) 製品と消費 糸は三手から四十手を紡ぎ二割七分はロープ用とす。其他細手布、足袋底、帆布、帶、靴通に織込まれ、白木綿の線糸や電線の包布等に織り込まれ、關東地方に多く消費せられ、僅に製品の一割六分が手、十二手代用として遠く支那、滿洲に輸出せられる。少數ではあるが獨逸に輸出せられる。是は安價であるから精選して服地に使用する。即製品は織物業の發達してある縣下を始め交通時間的距離の地に多く消費せられる。

(7) 女上の子嗣 十臺のガラ紡には女上の手が少くも二十人かかる。工場主は長い間の経験から自分



てない。機械の性質が単純なだけ、それを取扱ふのに熟練を要するのである。他の紡績機であれば獨りて仕事をしてくれるから、人間は側について手助けをしてやれば済む。ガラ紡の方は人間が主として働いてゐる。それがガラ紡の機械としての價値の少いところである。又それがガラ紡に従事する人間が腕の誇りを自覺する所である。仕事の上にも材料の上にもその出ぬやうにして行かねばならぬが、監督を付けても出ることではないから働く本人の注意力が最も大切である。その注意力は子供の性質に依るものは勿論であるが、教育のあるものは程注意が萬事に行き届く。早くから田舎の子供を連れて來て養育して仕事には慣れるが注意が欠けてゐる。學校に通はせれば尋常に出てから三年たつては仕事にならぬ。女工はさうして渡り者は駄目らしい。繰營者の苦心はこゝにもある。

(8) ガラ紡の中心地は岡崎である。ボロの集積高は統計が得ないから確かなことはわからぬが、恐らく岡崎が中心地を占めてゐる。全國に支那から集めたボロが製綿原料問屋を経て製綿家(市内二十六戸、市外四十戸)に渡り、約二百萬圓二百五十萬圓の綿となり、其六割は岡崎地方で消費し、他は全國

支那に輸出せられる。其の製綿の貯蔵地である。又水車工場を個人經營者は指を屈する程の少數である。是は製造と販賣を兼ねてゐるのが多い。戸共同出資して水車工場を所有し其内、獨立して製造を営むものや機械一ヶ月九圓内外の相場賃する工場にある製造請負業者は問屋から材料を受取り糸に製して商屋へ渡し請負賃を得る。其の間屋、綿糸商、資材家であり、經營者である。所在地(市内六十六戸、市外七十戸)である。故にボロが岡崎に集まり、市内や附近に運ばれて(運賃は市の北方十五軒所にあり、運賃は市に九錢)ある川向まで、貴につき九錢)綿となり再び岡崎の問屋に集まる。綿は更に市の内外に運ばれてガラ紡にかり糸となつて岡崎に集まる。従つて岡崎に近いことが何か便利である。

交通運輸の便利が資本の所在にかかるといふことも重要な要素をなしてゐる。矢作川沿岸にガラ紡機が盛になつた原因として次の五ヶ條を挙げたい。(一) 矢作川の水力と電力を利用するに便利であつたこと。(二) 附近は原料棉花の産地であり、綿糸の供給地であつたこと。(三) 耕、狭く副業の必要があつたこと。(四) 消費を近くに控えてゐたこと。(五) 當地地方人のガラ紡經營上特殊の技能を有したること。

ガラ紡は落綿糸、絹糸、ボロを原料として取扱ひ、所謂廢物利用に少くも貢獻してゐる社會事業である。其の量的方面に於ける今後の發達は尙益々發展の餘地あるもの、如く考へられる。尙ほ傾向も矢作川沿岸地方の地理的處境が然らしたる處で其の自然と人文との關係の密接なことは以上ガラ紡の上で徴するも明かである。

最近歐米教育に於ける諸問題 (四)

日本大學第四中學校 文學士 山口幸之助

職業教育の組織 米國に於て職業教育に考慮を拂ふに至つたことは必ずしも古くはない。最初作られた職業學校は私立であつたが、其後各都市が關心をもつ様になり、州規を以て規定する様になつたのは一九〇七年ウィスコンシンが開始である。其後色々調査が行はれて一九一七年にはスミス、ヒューズ職業教育報告書が出來た。それによつて各州はその行ふ職業教育に對して聯邦政府の補助を受けることを規定したので、その補助金もかなりの額に上つたのである。一九二六年の豫算によつて三〇〇萬弗となつており又その種職業學校の教師養成のため一〇〇萬弗又教育調査に二〇〇萬弗を計上してゐる。

職業教育の類型については各州全く自由にして、地方的必要に應じてゐる。大體は次の如きものである。

イ、二年間の補習學校 (スクール・タイム・デイ、夜學校)

ハ、夜學校

カ、如く職業教育は頗る盛になつてきたのであるが、こゝに注意すべきは大資本家がこの種教育に關心を持つてきたことである。かくして職業指導運動、職業紹介、指導等が發展し學校に職業指導員が置かれてゐる所が少くない。米國人の考へによる職業教育振興は一つの國民的投資であり職業教育の完成は利潤を生むといふのである。

職業教育の完成は利潤を生むといふのである。最近著しき發展をなせるも人間の實生活に踏み込んで世を出し、幾分でも緩かな土地は教育の開發にあつたやうで、耕作を化してゐる。岡崎から矢作川の支流に沿つて上れば矢作の水が如何に巧妙に流れに沿ふ村の人々に役立つてゐるかを目標に富み、山は良質の花崗岩露するであらう。

都市に順應せる學校經營案が考へらるゝ如く農村にもそれに順應して最大の教育効果を收めんとする計畫がある。かの農村統合學校の出現はこの點より注意すべきものである。以下これについて少し述べよう。

都市の急激なる發展は都市學校の急激的發展を促したに反し農村教育は一層疲弊しその教育能率に於て頗る遺憾なるものがある。この事實に直面し、農村教育に適應したる優良なる學校を持つべしとの議論が盛になつて來たのである。そして其結果の一つが統合學校運動 (Consolidated school or central school movement) である。即ち不經濟な、而も教育能率のあつた小規模な單級學校に對する數個の地方學校を集めて優秀な一つの現代的學校を作らんとするものである。この統合學校の成立は以前よりもより廣き範圍を學校單位とするから生徒の輸送に關する問題に直面する。一八六九年マサチューセツト州は近傍都市の學校に公費を以て生徒を輸送することを規定した。それが大體中學校に通ふ生徒の便宜をはかつてあつた。しかし其後統合學校運動の發展は相俟つて小學校生徒の輸送にまで及んでゐる。一八八二年以後にはマサチューセツト州では單級學校の制度を廢止し統合制を取る様になつた。州の統計によつて一八八八年に於ける生徒輸送に要した費用は二六〇〇〇ドルであるが現在では九〇〇〇〇ドル位に上つてゐるものである。

漸次この運動は全國的のものとなつて來たのであつて一八九五年には國民教育協會が委員を任命し農村教育全面にわたつて調査にあたらしめた。この委員の報告は一八九七年に出たのであるが、その結論によつて統合學校制の有効なること及び州の補助の必要を述べてゐるものである。

